

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	利用者と職員の関係は基本的には一定の信頼関係を保っているものの、「親しさ」と「馴れ馴れしさ」の境を越えてしまいがちな時もある。声掛けが指導的になってしまい、命令的な口調に繋がりがかねないこともある。	利用者の全てを心身共に「支援」することが職員の使命であり、職員側の価値観で促したり指導したりするものではない、ということをしつかりと理解し、日常的な場でもその理念を元に介助が実施できるようになる。	毎月マナー研修を実施する ①接遇マナー研修をおこない、基本的な言葉遣いの見直し、改善に向ける。②介助技術の向上と並行し介助マナーの習得を目指す。	6ヶ月
2	54	建物全体が施設としては狭小のため、プライバシーの確保や衛生状態の保持が難しい。	公共部分を快適な環境にするための整備。それぞれの利用者にとって安心安楽と感じられる居室空間を整える。	公共部分の整頓と美化。居室の衛生・清掃 ①各居室に蓋付きの処理箱、脱衣籠をおき清潔にトイレ処理をしたり着替えの服を回収できるようにする。②清掃管理票と居室衛生表(シーツ交換等)を利用し全居室を偏りなく衛生管理をする。③食堂や台所、脱衣所などの収納棚を整備する。	6ヶ月
3	35	いまがわ地区は平成23年3月の震災において液状化等の地震被害を受け、入居施設として営むことが不可能になり他地区(成田)施設への避難を余儀なくされた。今後同じような災害が起きた際に同様の対応ができるとは限らず、また滞在し地域密着型施設としての地域住民的役割を果たすことへの日ごろの準備が整っていない。	認知症入居者が災害時に速やかに安全に避難できる体制を整え、職員等に周知災害時に対応できるようにする。また、日常的に地域住民と災害時の対応を検討することにより、地域に根差す施設としての災害時の役割を担えるようにする。	①年1回の災害時訓練を行う。また、それに向け具体的な計画案を作成する。同地域他施設の対策プランを調査に参考するべき点を把握する等行う。 ②今川地区の自治防災組織の立ち上げに参加し、地域としての対策案の作成に寄与する。 ③本社に対し、今川地区の施設としての課題、災害対策を報告し、対応を求めめる。	12ヶ月
4	40	食事提供について見直すべき点。その1. 献立作りから毎日の買い物や調理を利用者と共に行なうのがグループホーム本来の姿ではあるが今はほとんどの食材を業者に発注している状況。その2. 摂食状態が変化してきた方に対し、他の方と同様の献立を単なるミキサー食や刻み食にする対応のみだった。	食の大切さをあらゆる点で見直す。生活に取り入れる食との関わり、食事の提供方法、栄養摂取の裁量の方法として捉える、など食事に関する全てを系統的にまとめ個々の方にあった食事の提供が実施できる仕組みをつくる。	①2階のユニットでは全食のを自分たちの買い物で賄い、献立を組んで本社栄養士のチェックと栄養指導を受ける。②嚥下状態に添った食事の調理方法とメニューを栄養士と共に考案する。③開発が進んでいるソフト食も併用する。	12ヶ月
5	3	地域住民に浦安いまがわ館の存在が広く知られていない。秋祭りなど限られた催しでしか交流がない。	出前講座やいまがわ館開催のイベントに地域住民の方が参加できるようにする。地域の行事や素子運営に従来より一歩踏み込んだ関わりを持つ。	①出前講座を実施する。年2回～3回。②いまがわ館イベントを実施。回覧板で参加者を募る。③年間行事のお手伝い出来る限り参加する。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。